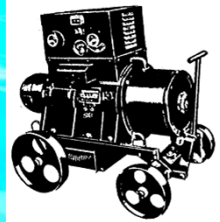


第2回



参加費
無料

喫茶 接合ロマン

接合科学ヒストリア講演会

主催：大阪大学 接合科学研究所

後援：(一社)日本溶接協会(依頼中)、(一社)溶接学会
(一社)生産技術振興協会

日時
場所

2020年

1月21日 火 19:00-20:30

大阪大学 中之島センター

(定員70名 先着順)

大阪市北区中之島4-3-53 (下図参照)

講演
講師

「アーク溶接の発展経過」

講師：三田 常夫 (大阪大学招へい教授)



講演
概要

アーク溶接は、今日の工業製品にとって欠くことのできない重要な加工技術であり、あらゆる産業分野で大きな役割を占めています。アーク溶接に用いられるアークは1807年にイギリスで発見され、発電機が出現した1860年頃以降アークを用いる溶接法の適用が本格化し、現在の主要なアーク溶接法のほとんどは1950年前後に開発されました。わが国では、1914(大正3)年にアーク溶接が初めて導入されましたが、その後の100年間で大きく発展し、近年では世界の溶接界をリードする主要国としての立場を確立しています。本講演会では、アーク溶接の主な溶接プロセスの開発経過と、それらに用いられるアーク溶接電源の発展経過を、ティグ溶接およびマグ溶接を中心に紹介します。

講師
略歴

1972年 大阪大学溶接工学科卒業。(株)宮地鉄工所、日立精工(株)、ダイヘン溶接メカトロシステム(株)で従事。溶接学会特別員、フェロー。



お問い合わせ

「喫茶 接合ロマン」事務局 (メールにてご連絡ください)
jwri-cafe@jwri.osaka-u.ac.jp